

[成果情報名]アスパラガス半促成長期どり栽培における茎枯病の総合防除体系

[要約]アスパラガス半促成長期どり栽培において、春芽萌芽前の残茎除去と畝表面のバーナー焼却に加え、立茎期間に約 10 日間隔で、夏どり期間に約 14 日間隔で 9 月下旬まで薬剤散布する総合防除体系は栽培期間中の茎枯病の発病を抑制できる。

[キーワード]アスパラガス、茎枯病、総合防除体系

[担当]長崎県農林技術開発センター・環境研究部門・病害虫研究室

[連絡先]電話 0957-26-3330

[区分]野菜

[分類]普及

[作成年度]2016 年度

[背景・ねらい]

アスパラガスの主要病害の一つである茎枯病は、ビニル被覆による雨よけを行う半促成長期どり栽培の導入により発生が減少した。近年、本病の発生が再増加しており、汚染圃場での対策確立が必要となっている。本病は、萌芽時に感染しやすいため、春芽萌芽前の土壌菌密度を低下させる対策と、立茎開始から夏芽収穫終了までの感染抑制対策が重要である。そこで、春芽萌芽前の耕種的防除と立茎開始からの定期的な薬剤防除を組み合わせた総合防除体系の確立を行う。

[成果の内容・特徴]

1. アスパラガス半促成長期どり栽培において、春芽萌芽前の残茎の地下部からの除去と、畝表面の残渣をバーナー焼却する耕種的防除（2013 年度成果情報）に加え、立茎期間に約 10 日間隔で、夏どり期間に約 14 日間隔で 9 月下旬まで薬剤散布する総合防除体系は茎枯病の発病を大幅に抑える（表 1、図 1）。
2. 本総合防除体系は、褐斑病の防除体系としても有効である（図 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 立茎期間の薬剤防除は、浸透移行性のあるベンレート水和剤を 1 回目に散布し、その後 10 日間隔でベンレート水和剤以外の系統の異なる登録薬剤をローテーションで散布する（合計 4 回）。
2. アミスター20フロアブルは施設内で高温多湿が続く場合、薬害が生じるおそれがあるので、散布時期、散布時刻に留意し、散布後の換気を十分に行う。また、薬剤ボトルのラベルに記載されている注意事項を厳守する。
3. 薬液は、茎葉だけでなく、主な病原菌生存場所に近い親茎の株元にも十分かかるように散布する。
4. 生育中に発病した茎の除去は本病の抑制に効果的であるため、見つけ次第、罹病部より下から処分し、菌密度低下に努める。
5. 褐斑病については本成果情報に加え、施設つま面の開放や過繁茂を避ける管理等を行い、施設内の過湿をさける（2007 年度成果情報）。
6. 本病防除指導には、本研究内容に加え、病原菌の生態を載せた茎枯病防除マニュアル（2017）も参照する。

[具体的データ]

表1 総合防除体系の耕種的防除

①残茎除去	前作終了後の全刈りからバーナー焼却前までに、地下部から抜き取るか、地表面から約3～5cm下（りん芽より上）を切り取る
②バーナー焼却	畝表面の残さをバーナーで焼却する

表2 薬剤防除体系

	立茎期間						夏どり期間							
	4月			5月			6月		7月		8月		9月	
	上旬	中旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	
	ベンレート水和剤	ロゼラル水和剤	ダコニール1000	コサイト3000	アミスター20フロアブル	ダコニール1000	コサイト3000	ダコニール1000	コサイト3000	ダコニール1000	アミスター20フロアブル	ロゼラル水和剤	コサイト3000	
茎枯病	◎	○	◎	○	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	○	○	
褐斑病	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	
斑点病	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	

◎:対象病害に登録あり、特に重要な防除、○:対象病害に登録あり、—:対象病害に登録なし

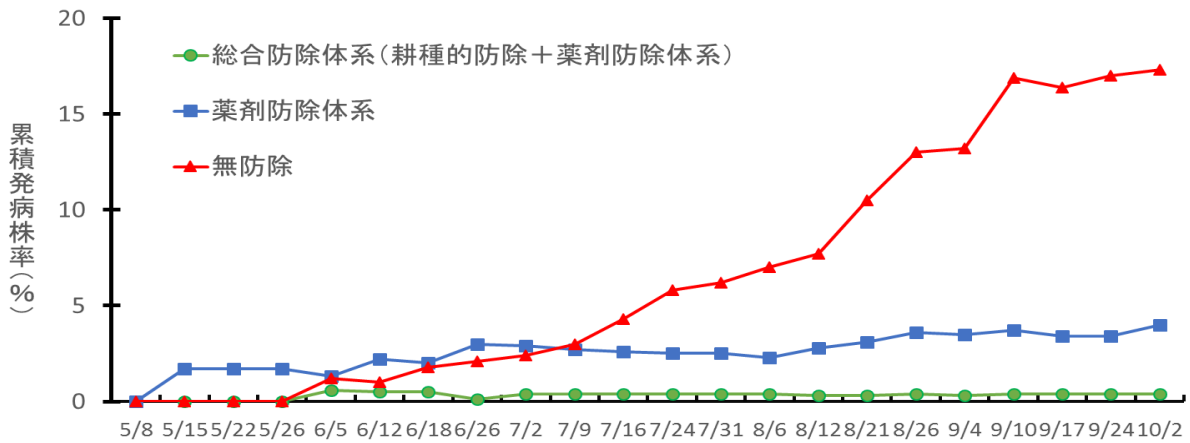


図1 総合防除体系の茎枯病に対する防除効果(2014年)

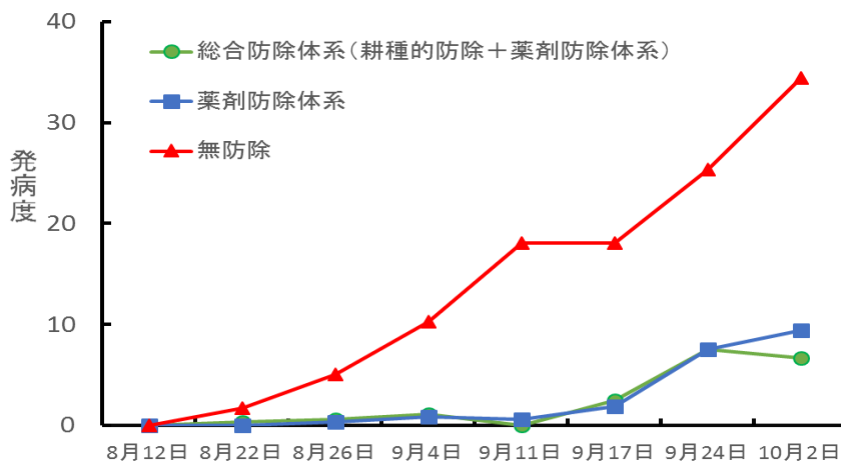


図2 総合防除体系の褐斑病に対する防除効果(2014年)

注) 図1、2

- 1) 試験場所: 農技セ内ビニルハウス
- 2) 供試品種: ウェルカム (8年生株)
- 3) 立茎開始: 2014年4月7日
- 4) 耕種的防除:
 - 残茎除去: 2014年1月20日
 - バーナー焼却: 2014年1月27日
- 5) 散布薬剤: 表1のとおり
各薬剤に展着剤スカッシュを加用
(アミスター20フロアブルを除く)
- 6) 散布量: 100~300L/10a
- 7) 初発: 茎枯病 2014年5月15日
褐斑病 2014年8月14日
- 8) 茎枯病の発病茎は調査時に除去

[その他]

研究課題名: アスパラガス有望品種の栽培技術確立、市場性の高い超極太アスパラガスの栽培技術確立
 予算区分: 県単
 研究期間: 2009~2014年度、2015~2017年度
 研究担当者: 中村吉秀、江頭桃子、寺本健、難波信行、森 三紗